アカシア通信

発行：医療法人財団アカシア会 （三郷市早稲田3-26-3）
Vol：12号 （2016年4月18日）
発行担当者；長島喜一 （パティオ 048－950－7311）

障がい者の就労支援体制広がる！！ ラポルタ分室開設

２０１２年３月に三郷市早稲田の地に誕生したラ・ポルタは４年の間に３３名の障害者を就職へと繋げ、「障がいがあっても地域で暮らす、働く」を実現してきました。今も多くの方々が利用を希望してくださっています。そのような中で私たちは、三郷の南部地域や他市からもアクセスの良い三郷中央に新しい事業所の開設をすることにしました。

４月１日。ラ・ポルタ分室　三郷中央はラ・ポルタから移って来てくれた5名の利用者さんと、専従の職員２名でスタートしました。初日に訓練を終えたみなさんに感想を聞きました。「におどり公園に見に行った桜がきれいだった。（I さん、T さん）」、「初日がんばりました！（T さん）」、「ラ・ポルタから離れて N 君がいないのが少しさびしいな。（N さん）」、「狭いけど、がまんします。（H さん）」「利用者さん一人ひとりとゆっくり付き合える、小さいならではの利点も感じます。（佐口）」、「家が近いからとか、プログラムが魅力だからなど、さまざまな理由で分室に来てくれた利用者さんが、自分に合った職場を見つられるように、職員で力をあわせてお手伝いしようと思います（加藤）。」

お昼の準備でご飯を盛ろうとしたらしゃもじが無い・・・ハンコを押そうと思ったら朱肉もない・・・。と毎日さまざまありますが、窓の外に広がるにおどり公園の桜は今が盛り。私たちの新しいスタートにエールを送ってくれているようです。お近くに御出での際はぜひお立ち寄りください。

「におどり公園」から見る分室
（鉄塔の右の４階建て１階です）。

４月１日の開設日に「におどり公園」にて利用者さん達と撮影

ラ・ポルタ分室　三郷中央（三郷中央駅徒歩４分）
利用定員：10 名、主たる障害：精神障がいと知的障がい
職員（専従）室長・サービス管理責任者　加藤明子、副主任・生活支援員　佐口ルミ枝
住所　341-0038　三郷市中央 1-13-12　リヴェールメゾン 103 号室
電話　048-960-0808

☆心に残っている あのこと このこと★

さ・く・ら

「歩けなくても、遠くても、母に一目会いたい」

～奇跡の600km自動車紀行 車椅子Eさん親孝行の旅行～

クリニックふれあい早稲田 院長；大場敏明

＜願いを叶えたい　しかし遠い＞

3月13日、日曜日の朝7時、往診運転をお願いしているSさんにコールした。ダメ元だと覚悟していたが、驚いたことに、一言で快諾してくださる。起きたらすぐ出かけると。

車椅子（両足骨折）・在宅酸素のEさん（53歳）の親孝行の旅が始まった。

7時16分、訪問看護師さんより報告。バイタル血圧 138/80　熱 36.6　脈 94 で、落ち着いていると。先日の往診時より落ち着いている。専門運転手さんの運転で、出かけることになったと伝える。訪問看護は、毎日2回で、早朝でも夜でもコールに応える。日中独居のEさんには、正に家族の一員、いわば母親役で、支え続けている。所長さん達は、夫婦二人だけの長時間長距離旅行を、とても心配していた。

メモ①　カルテより＜2016/3/11　訪問診療＞血圧170～184　不安・不眠。母親の件、姉の件、などなど・・。母親は、肺癌・脳梗塞半身不随、会津若松の病院に入院している。3/13 に見舞いに出かける予定と。2歳上の姉が連絡取れなくなっていることも。先日も、不眠で血圧 200 近くまで上るなど臨時で訪問看護、最近血圧上昇気味。

＜母に会いに、いざ出発　その道のりは…＞

9時30分出発で、Eさん夫が手配したレンタル車をキャンセルして、「自分の車で行きますよ」とSさん。確かに、長時間運転は、慣れている車の方が良い。出発予定時刻、見送りに伺う。2年前から往診で伺っているE宅、いつものようにチャイムを押すが、寂として音なし。あれこれと気をめぐらし、駐車場で待っていたが、Eさん夫に電話したら、すでに出発していて「高速に入りました。順調です」と・・・。

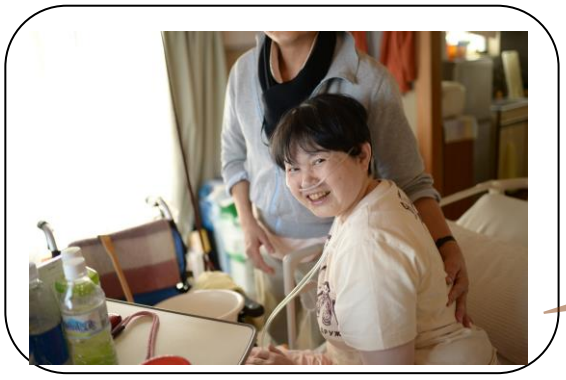
メモ②　ネット情報より＜会津若松への道＞　三郷IC⇒＜外環自動車道＞草加・川口IC⇒＜東北自動車道＞浦和・久喜・加須・羽生・館林・栃木・宇都宮・那須・白河・郡山⇒＜関越道＞猪苗代⇒

Eさん夫君に依頼した電話連絡が次々と届く。9:30　前に出発・夫付き添い、高速に入ったらすぐ寝付いたと。　10:15　血圧 148/90　脈 100　11:05　血圧 140/98　脈 104、　11:50 血圧 143/93　脈 93　高速降りたと、　12:35 母が入院している病院着＜所要3時間＞　母親と面会へ　14:00 面会終了 180/110　その後 160 代/になる。帰途に向けて出発したと 14:59 電話、　15:00　高速に乗り血圧 146/84　脈 113、　19:36 Sさんから電話で無事到着、　19:43　E夫電話で帰れましたと報告。「自分が運転していたら、途中でダウンしていました」、往き3時間・帰り5時間30分・計8時間30分の大旅行だった。

帰宅後Eさんはこう語ってくれた。『周りの人たちに心配をかけましたが、それでも母が生きているうちに会いたかった。出かける前から体調はおもわしくなかった。でかける先は病院だから何とかなるさと自分に言い聞かせて出発した。脳梗塞の母は、体がまったく動かず、言葉も発せられず、表情もほとんどなく、目を合わせることも難しい状態。私の声が届いているのかもわからない。麻痺とパンパンにむくんだ母の足を帰るまでずーっとさすりました。母が夢うつつでも私が会いに来たと思ってもらえると嬉しいけど』と。

途中の万が一の病医院もチエックしてあったが、幸いにも不要だった。ご主人がピッタリと付き添い、Eさん自身がいつものようにバイタル測定、リアルタイムな主治医への連絡。ご夫妻の支えあいで、親孝行

旅行を完遂した。



この写真は、この『通信』に写真提供をお願いしたところ、「ヘアースタイルが良いと褒められたので、後ろ姿でも撮りましょうか？」と、色白のエンゼル・スマイルがまぶしい。掲載の写真は、E さん夫にご提供頂いた。

メモ③　民医連HPより　途中の医療機関：医療生協・民医連の病院・医院　川口（埼玉協同病院）・宇都宮（宇都宮協立診療所）・郡山（桑野協立病院）・会津若松（医療生協会津若松診療所）など

＜運転手のSさん　ありがとう＞

翌日、定期往診でSさんがいつもの運転。私は「有難うございました、もし同行していたら、交代で運転しなければならなかったでしょう。直前のお願いだったのに、すぐ快諾頂いて、大助かりでした」と、心から拝みながら、お礼した。Sさんは、「車酔いが来ないように、往復600km　静かな運転を心掛けました」と。自動車運転に熟知しており、デイなどの送迎担当歴もあり、安全・安心運転を貫いた。Eさんの自動車紀行には、まさにベストのオンリーワン運転手だ。

メモ④　カルテより＜病歴経過概要＞41才・乳癌切除術、その後肺転移・脊髄転移、46才・脊髄腫瘍切除術、髄膜播種・小脳転移　50才・健和病院PCU（緩和ケア）外来へ、51才・当院より訪問診療開始、鎮痛薬の調整で入院　病的骨折、52才・肝機能悪化、装具調整入院　冬に糖尿病入院、その後SMBC（血糖自己測定）、インスリン自己注4回/日　53才・頭痛　足首捻挫　腰痛　車椅子から滑落骨折、糖尿病コントロール再入院。夫が福島にいくのでレスパイト入院など

＜Eさん御夫婦の意思　共感　協力　そして実行　感動の一言＞

10数年の闘病生活は、癌再発・多発転移・多病、多くの薬とインスリン注射・在宅酸素中で車イス、日中独居在宅療養を続けている稀有で奇跡とも言える病状である。そして、今回の遠距離で長時間の自動車旅行も、奇跡的だと思う主治医だが、Eさんは、「先生から見ればそうでしょうけど・・」とさらりとおっしゃる。そして「大場先生の配慮と、Sさんが安全に送ってくれたことに感謝します」と

メモ⑤　カルテより＜3/25　訪問診療＞血圧は下がっている、訪問看護時血圧110～120。だが診察時には　血圧160/98。　夫と本人の話し「会津若松に近づいて実は血圧は200近くになっていたが、相談して先生には言わなかった」と。「はらはらどきどきで奇跡でした」と私。「二人だけで行ったら帰って来れなかった。Sさんのお陰です」と。

思い出されるのは暖かい3月上旬、オール埼玉の安保法反対集会（1万人以上が参加した大宮駅近辺）で夫君と偶然逢ったこと。Eさんのお母さんが、ICU（集中治療室）に緊急入院し、そのお見舞いに行きたいので、急な受診用の情報提供書作成を依頼されたのである。

また大旅行の前日に、Drストップが必要か、自分が付き添うしかないかと悶々としていた私に、「Sさんに頼んでは」と副院長の一言が、ベストアドバイスだったことである。

ご夫妻の頑張りと、皆々さま方の暖かいご協力に、感動し続けた一日だった。

お母さんは４月＝日に逝去されました、ご冥福をお祈り申し上げます。

医療法人アカシア会　今年度の目標と課題　（抜粋）

1）医療・介護・福祉の活動理念を地域に根ざして実践する

引き続きアカシア会の基本理念である「その人らしい生活と人生をささえる」ことを実践する上でも、トライアングルの支援をさらに積極的に進めます。その重要な柱の一つである友の会や家族会など地域の方々との関係をより一層大切にしていくことが求められます。友の会と共催の「平和のつどい」、「健康教室」への参加や、運営推進会議、家族会等の取り組みを引き続き重視していきます。その一環として訪問看護ステーションによる「地域の保健室」開催を検討していきます。また、医療と介護の連携をよりきめ細かく行うためにシステムソフトを新たに導入します。

2）質の向上を目指し研修・教育活動を強化します

質の向上を目指すことは、単に技術の向上に留まらず、職員の定着率をあげ将来の事業の推進にも欠かせません。また、アカシア会の強みである事業所間の連携をより強化するうえで、他事業についても学んでいく事が重要です。理念教育や法令順守等の基本的な研修も重視します。また、幹部の育成は喫緊の課題です。東都協議会との連携も強め、計画的な職員育成を進めます。今年度より全事業所で実施したストレスチェック（心理的な負担を把握する検査）の結果を重視し、分析・問題解決に努めます。

3）中・長期的な構想の作成を進めます。

三郷市北部地域における更なる「時代と地域のニーズ」に応える事業の検討を東都保健医療福祉協議会並びみさと協立病院グループとの連携・協力もふまえながら進めていきます。2018 年には診療報酬、介護報酬の同時改訂があり、軽度介護者の切捨てなど大規模な制度改定が予想されます。今年度は法人構想委員会でグループホームの定員拡大、就労支援事業の事業拡大について論議してきましたが、総合事業や相談支援センターの拡大などについても検討します。更に情報収集、研究に力を入れ、先を見通した法人の中・長期的な構想を協議していきます。

▲各事業所　今年度の目標は▲

私もあなたも「居心地」いい家に

グループホーム・アカシアの家

グループホーム・アカシアの家は、平成１５年に設立しました。三郷のこの町で普通に暮らしていけるように、小さな家と街を舞台にして　、

その人らしい生活をお手伝い致します。“地域の中で安心して暮らし続けられる家”をめざし、地域に皆さんとの交流を大切にして支えながら生活します。

入居者は、９名　女性ばかりのホームです。 職員は、９名　女性7名・男性2名です。ゆったりとしたをスタッフと“一緒に生活しながら、ともに支えあい”「その人らしい生活」をめざします。“力を合わせて、豊かで楽しい”「家庭的な暮らし」をめざします。

隣の公園のさくらが、3月中旬には咲きました

ご家庭や地域の皆さんとの触れ合いを大切にして、“その人らしい暮　らしと人生を送り続けられる“ 「ともに歩む家」をめざします。

平均年齢87．7歳・介護度平均4．4と重度化していく中、事業所としても看取りが課題になり、事故対策も必須になりますが、余暇も楽しみ皆さんとゆったりする時間も大切にしていきます。

ラジオ体操や三郷健やか体操を日課にして楽しみながら身体も動かしています。ボランティアの協力も得て、紙芝居・ハーモニカ・お散歩・談話に花を咲かせます。

平成２８年度からアカシアの家♪音楽会(ゴスペル)♪おれんじカフェ　も始まります。ますます、にぎやかに地域の皆さんとの触れ合いも増えます。

地域で暮らすためには、仲間と居場所が必須だよね

地域活動支援センターパティオ

平成 18 年度より地域活動支援センター（Ⅰ型）として開所され、今年度は法律体系の移行により 10 年目を迎えます。

パティオとしては日中安心して過ごせる居場所の提供やプログラム等、比較的自由な雰囲気を通してミーティングを毎月開催し、職員とメンバーの意見交換や方向性の確認をするなど、メンバーの主体性を尊重しています。

皆で外出等のイベントを月１回行ったり、昼食作り、交流やお互い理解を目的にしたサンデーパティオ、男性利用者が多い中、女性同士が気軽に交流できるようにというレディースタイム等工夫を凝らしたプログラム作りも行っています。

今年度は昨年度方針を基に具体化、発展させたいと考えています。来所できなくなった利用者へのアプローチとして電話や訪問等を行っていますが、それを強化したり、他機関同士の交流を深め、地域あるいは私達に足りない物等を考えながら実践へ結びつけ、新たな社会資源に繋がるよう取組んで行きたいとも思っています。同時にピア（当事者）の活動も充実させる仕組みを考え、講演会や出版物等独自の視点で作り上げ、地域へ発信できる節目となる年度にしたいと思います。

メンバーの中には、ラポルタに繋がり、働くきっけになった方が何人か居ます。パティオは、次に繋げる橋渡しの役割も担っています。

創作意欲と食欲旺盛なパティオメンバー達

パティオはホッとできる居場所と同時に、メンバーやスタッフとの交流、地域社会の一員として、仕事などへの架け橋になるなど、温かくもあり厳しいセンターとして歩んで行きます。

新しい“仲間”紹介

認知症デイサービスふれあい倶楽部　山﨑一樹さん

Q：どうしてアカシア会にたどり着いたのですか。そしてふれあい倶楽部の利用者さんと職員の第一印象はどうですか？

A：元々、福祉の仕事をしておりました。認知症に興味をもっていたので募集をみて応募しました。利用者さんと職員の第一印象は、皆さんの笑顔と笑い声が多い場所だと感じました。

Q：山﨑さんは、どのような方ですか？

A；家族と一緒に出かけ遊ぶ時間も好きですが、自分一人でのんびり過ごす時間も好きです。

Q：ご自分をアピールしてください。

A：趣味はマラソンで、休みの日には大体 10 キロほど走ります。昼寝をしてのんびり過ごすことも好きです。

お父さんの好きな所は「色々なことをして一緒に遊ぶこと」
ちょっと困る所は「怒る時に睨むこと」です。

山﨑さんは、非常勤として勤務し、4月1日から常勤の職員となりました。認知症高齢者の支援にますます磨きをかけ力を発揮してください。家族との温もりを大事にね。娘さんが、お父さんの似顔絵を書いてくれました。よく特徴が捉えていますね。素敵です。　＜編集者からの一言です＞

。♥。・゜♡゜・。♥。・゜♡゜・。♥。新婚さん　いらっしゃい　♦♥♦:.。。.:♦♥♦:.。

三郷市障がい福祉相談支援センターの旧姓；稲垣さんが結婚されました（昨年12月14日入籍）。まだまだ、ほやほやなので、通信で皆さんに「幸せ」をおすそ分けしたいと思います。

1）氏　　名；　**海老沼　裕子**（旧姓　稲垣　）＊年齢は不詳のようです。
2）私の旦那様；　**海老沼　宏幸　（44 歳）**
3）私が引きつけられた夫・宏幸さんの魅力は？
＜誠実なところと、謙虚なところです＞

4）私からみた夫

＜いつもニコニコ。仕事に趣味になんだか毎日楽しそうです。夫の仕事は、三郷にある障がい者の生活・作業施設「ひまわり」で働いています＞

5）夫・宏幸さんの自己アピールと私の妻・裕子について

＜浦和レッズとスイーツをこよなく愛しています（奥さんも）。ちなみに本田佳佑と同じ誕生日。私の妻は、のんびりゆったり…癒されます。＞

6）結婚前　そして結婚してみたら

＜A 型と B 型だ･･･と思いましたが、A 型と B 型の性格の違いで、お互いの穴を埋めあっています。＞

7）二人の夢　そして将来像を語ってください

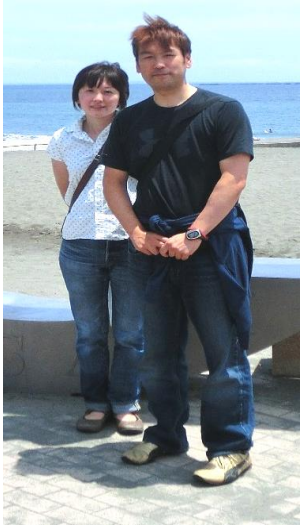
＜高齢になったら畑で野菜を作り自給自足の生活をし、のんびり過ごすことです＞

8）結婚後、仕事上での変化はありますか？

＜夫の仕事の出勤時間が早く、合わせたら、9 時 10 分前のドタバタ出勤から、朝日を拝んで出勤の朝型生活に改善されました。＞

9）あとは何でもどうぞ

＜今後ともよろしくお願いいたします。＞



写真はできるだけ小さくして掲載してと希望されましたが、せっかくなので拡大しました。
希望を叶えることができず、すみません（笑い）

（職場の上司：山田一三さんからみた、結婚前と今）

ご結婚おめでとうございます。

勤務を始めた頃から天然キャラで売り出していました。無事（？）に売れてからもその天然さは健在です。先日も職員有志からフタ付のフライパンをプレゼントしてもらい、袋に入っていたのですが「ラケットだ！」となぜか喜び、開けてからはフライパンよりも「そのフタが一番嬉しい!!」と感動をしていました･･･。

結婚をされてからは、なぜだか朝の出勤が早くなりました。色々と仕事量も増え業務は本当に大変なのですが、無茶なことでも、動揺せずどっしりと対応する事ができるようなったと感じています。

聞くところによると二人とも天然キャラだそうで、きっと明るく楽しい家庭になることでしょう。これからも末永くお幸せに！

◆編集後記◆

2013年11月に11号を発行後、諸事情のため中断していました。再スタートとして年度の初めがいいという判断で、再び「通信」が歩み始めることになりました。

アカシア会は、医療（外来・往診）・訪問看護・高齢者支援・障がい者支援の活動をしていますが、法人職員の交流とアカシア会の活動を地域や友の会の方々、東都協議会の皆さん、関係機関等に知って頂く事を主な目的に発行していきます。

通信が様々な方々や事業所の架け橋になれるようにと願っています。ご意見や注文など是非お寄せください。予断ですが、編集って面白いですよ。書き手の方にどう共感・共鳴できるかですね。（長　島）